

平成 26 年度香川栄養学園事業計画  
 (女子栄養大学・女子栄養大学短期大学部・香川調理製菓専門学校)

一、施設・設備の主たる整備計画

支 出 の 部

(単位：千円)

事 項	事 業 内 容	事業費	財 源	実施時期
駒込校舎改修工事	製菓第 2 実習室 AV 設備更新工事	7,800	自己資金	平成 26 年 4 月
	動物飼育室改修工事	5,000	自己資金	平成 26 年 8 月
駒込校舎小計		12,800		
坂戸校舎改修工事	模擬保健室新設 (旧看護実習室)	7,500	自己資金	平成 26 年 5 月
	GHP 室内・外機耐用年数大幅超過 (平成 4 年・5 年設置分) 更新工事	92,000	自己資金	平成 26 年 5 月
	2 号館男女トイレ改修工事	17,000	自己資金	平成 26 年 8 月
	6302~6304 各教室の入退室ドア改修、制御装置更新、上下可動式ホワイトボード設置	13,000	自己資金	平成 26 年 8 月
	官能検査室改修工事	6,500	自己資金	平成 26 年 8 月
	6503 教室床改修工事	5,500	自己資金	平成 26 年 8 月
坂戸校舎小計		141,500		
法人不動産購入	橋詰ビル購入	119,000	自己資金	平成 26 年 8 月
合 計		273,300		

## 二、その他の主要事業計画

### 収入の部

事 項	計 画 内 容
教育研究財源の確保としての補助金の確保	私立大学等経常費補助金の一般補助と特別補助について、例年通り申請するが、政府方針（アベノミクス）の影響などから補助金制度が平成 26 年度も変化することが想定されるなど、不確定要素が大きい。情勢を見極めながら慎重に対応したい。また、文部科学省の直接補助である研究設備整備費等補助金についても申請したい。
募金事業	募金活動に注力し、創立 80 周年記念募金への寄付者に建学の精神を一層ご理解いただき継続してお願いをする。卒業生、保護者、法人、関係団体等、多くの方にご芳志をお願いするとともに、教職員に対しては年収の 1% 募金を目標に募金活動を内部から盛り上げ活発化していきたい。

### 支出の部

事 項	計 画 内 容
人件費支出の抑制管理	平成 26 年度も引き続き退職者の補充、教職員の人事給与制度の検討等を行ない、さらには兼務職員人件費、超過勤務等の抑制管理を徹底して人件費削減を図る。

三、その他の事業

① 教育に関わる事項

区分	事項	計画内容	
大学院	教育の充実	修士課程特別奨学生制度により、継続して優秀な入学生を確保し、修士課程長期履修学生制度により、社会人入学生に対しての便宜を拡充させる。また、在学生向けの大学院説明会を開催し、特に栄養学部出身者の本学大学院進学に向けての強化を図っていく。	
	教育の充実	平成 25 年度入学生より、栄養学部では「共通特論 I～XXV」を置いている。読書習慣をつけ、専門外に視野を広げ、語彙を豊かにすることを目的とする「共通特論 I (読書) 必修 2 単位」を 1 年通年で開講。また、「共通特論 XIV (英語 e-learning) 選択 2 単位」を通年開講。「共通特論 XVI (栄養学の背景に関する英語による講義) 選択 2 単位」を 1 年後期に開講し、オムニバス形式で英語による栄養学関連領域のトピックスを取り上げる。 平成 26 年度入学生より「共通特論」で開講していた「ジェンダー・セクシュアリティ論」を基礎・教養科目社会科学分野として開講する。基礎・教養科目「社会科学概論」を「社会科学入門」、「自然科学概論」を「自然科学入門」に科目名を変更し、開講する。 実践栄養学科及び保健栄養学科においては、外国語分野科目の英語・ドイツ語・フランス語に加え「中国語」を開講する。また、平成 26 年度入学生より成績評価を S(90 点以上)・A(89～80 点)・B(79～70 点)・C(69～60 点)・D(60 点未満)の 5 段階とする。	
	実践栄養学科	教育の充実	「管理栄養士国家試験出題基準改定」に伴い、本学における管理栄養士教育について検討を行った。平成 24 年度入学生から新カリキュラムがスタートし、より専門性の高い選択科目 5 系科目群を 6 系科目群として配置したカリキュラムを運用中である。26 年度においては、「履修カルテ」を導入し、学生に分野別単位取得状況と学習目標・自己評価を記入させる。
	保健栄養学科 栄養科学専攻	教育の充実	平成 24 年度入学生より、①家庭科コース②健康スポーツ栄養コース③臨床検査学コース④食品安全管理コースの 4 コースを設置し、1 年前期に各コースの「プレセミナー」を開講し、所属コースを決定させる。科目の履修確認を「共通履修カルテ」により行い、学生本人だけでなく担任やコース担当教員と情報を共有する。平成 26 年度においては「共通履修カルテ」は 1・2・3 年生用を作成する。
	保健栄養学科 保健看護専攻	教育の充実	科目のスリム化・科目の学年別配置の最適化等の検討を行い、平成 26 年度入学生カリキュラムを改定した。2 年後期に小・中学校各 5 週間(15 日間)の実習を行う「長期学校体験実習」(資格必修 6 単位)を導入した。また、養護教諭採用試験対策として、一般教養・小論文・教職教養・養護専門について、各担当教員が問題作成を行い、各学年において目標値を設定し、対策試験を実施。学生の採用試験情報収集や学習の場として「養護教諭教員対策試験室」が設置され、全員が養護教諭になれるよう指導の強化を図っている。
食文化栄養学科	教育の充実	入学定員増に向け、「入学定員増作業部会」が組織され、教育目標の明確化・カリキュラム等の再検討が行われている。第三者機関による調査を実施し、その結果に基づき、平成 28 年度入学生からの定員増に向け、さらに検討を進める予定である。また、学科のホームページ立ち上げに伴い、「食文化教育支援室」が設置された。	

区分	事項	計画内容	
大 学	栄 養 学 部	学生の経済支援	本学奨学金、日本学生支援機構の奨学金（定期採用・緊急採用等）、その他の奨学金について情報提供に努める。本当に奨学金を必要とする学生を把握できるよう申込時提出書類の見直しも検討したい。納入が遅れている学生に対しては家庭状況を確認し、本学奨学金の紹介を行う。
		課外活動の充実	授業の関係から学生の活動時間は短い、クラブ・サークル活動が活性化するようにサポートに努める。昨年、登録サークルの規程ができたので少人数で気軽に活動できるサークルの活発化を支援する。引き続き若葉祭や学内スポーツ大会のサポートを行う。
		メンタルケアについて	学生がカウンセリング室を気軽に利用できるように告知方法を工夫する。窓口対応の中でも学生の様子を観察し声がけなどに努める。必要な場合には保健センター、担任、保護者等とも情報を共有し、サポートを行う。カウンセリング研修会参加により学生担当職員のスキルアップを図る。
		学生寮（若葉寮）	寮内備品の取替えを継続（エアコン・温水給湯器）。居住する学生に不便が生じないよう計画的な実施を心がける。歓迎会やクリスマスコンパ等のサポートを行い、寮生間の交流を図る。退寮後の一人暮らしについては十分な安全指導、社会ルールの説明を行う。
		学内企業セミナーの充実	例年1月に35社程度に依頼し実施している合同企業セミナーだけでなく、個別に実施する説明会の回数と参加企業数の充実をはかり学生の応募機会の増加と利便性の向上をめざす。
		学生の防犯意識向上をはかる	インターネットトラブルや付きまといの相談が本学でも発生していることから、トラブルに巻き込まれないための啓蒙（掲示などによる情報提供）を行い、学生の防犯意識を高める。こうした問題について相談があった場合は速やかに家庭・警察への相談を促す。
		臨任教員求人の開拓	新卒での教員採用試験の合格率が年々低下するなか、非正規採用で経験を積んだ後、翌年以降再チャレンジに臨む学生が増加傾向にある。これらの学生への臨任採用情報を得るため県や市町村の教育委員会に情報提供を積極的に働きかける。
	2016年3月卒業者への就職支援	2016年卒業者の採用及び就職活動のスケジュールが大幅に変更されるため、それに則したガイダンスや対策講座等の就職支援プログラムの内容や開催時期を策定し当該学年の学生支援に支障のないよう対応する。	
栄 養 学 部 一 部	教育の充実	多様な来歴を持った学生に基礎となる栄養学の学びあるはブラッシュアップしたい希望に対応し、各授業内容の調整を引き続き行う。e-learningシステムを活用した学修の機会を増やすようシステム活用をすすめていく。	

区分	事項	計画内容	
大	短期大学部	教育の充実	栄養士としての知識だけでなく、就職してからの「社会人力」を高めるための工夫を専門科目・教養的科目を通じて行う。また、「私立学校等改革総合支援事業」で採択されたプレゼンテーション強化システムを複数の授業で活用し、表現能力等の向上を図る。それらの教育成果を計る一つの手法として(株)リアセックのPROGを導入し、リテラシーとコンピテンシーと言う軸において評価を行う。
		学生生活支援	学生が学内で自学自習できる環境を出来るだけ整備し、学内滞留時間を増やすようにする。学内滞留時間の長短が学習意欲・学力向上につながり、卒業後の愛校心にも繋がると言われており、また、学生サービスの向上は学生募集にも繋がることであるので、関係事務局の協力を得ながら学内での自学自習環境、学生サービスの向上を目指す。
学	栄養学部二部・短期大学部	就職活動の支援	就職意識・就業意欲を高めるためのガイダンスを強化する。また、就職対策の支援対策として、継続して採用試験の対策強化に取り組む。特に一般常識・適性検査などの模擬試験を実施した後に対策講座を行い、理解を深めるようにする。また、精神的な支援を必要とする学生に対して、的確にサポートしていくために、教員・職員の連携を密に行い、就職へ結びつけるようにする。その一環として就職対策委員会の組織を軸として教職員間の情報交換を行い、学生個人が抱える問題解決を図ることとする。
専門 学校	教育内容の見直し	調理師法施行規則の一部改正に伴い、平成27年度からのカリキュラム及び教育内容を変更する必要がある。平成25年度から継続して、調理師科及び調理マイスター科のカリキュラム及び教育内容の見直しを行っているが、合わせて、この変更に伴い影響を受ける製菓科のカリキュラムの調整を進める。	
	実習先及び就職先の開拓と確保	平成24年度から学生の希望する業態での実習が出来るよう、実習先の確保に努めてきた。平成25年度においては、ほぼ希望に添えるだけの実習先が確保されてきている。実習先確保は就職にも直結してくるので、継続して実習先確保と就職先開拓に努める。	
	生徒確保のための募集活動充実	定員確保が確実に出来るように、生徒募集活動を継続して充実させていく。募集活動の基本である高校生と直接接点できるガイダンス等に積極的に参加することとするが、募集活動要員が決して十分ではないので、DM等直接志願者に働きかけられる方法を充実させるとともに、ネット媒体、媒体誌などを利用し、認知度を高めていく。	
	施設設備の整備・充実	将来の改革の可能性を高めるために、法人とも調整しながら施設・設備の整備充実に努めていく。	

## ② 研究に関わる事項

区分	事項	計画内容
栄養科学 研究所	研究所講演会	平成26年度は11月22日に実施する。
	学外からの各種研究助成金の受け入れ	例年通り、企業や団体から研究費を受け入れる。
	研究所助成金の審査と配分	例年通り、研究所助成金の研究計画を募集し、審査の後に配分する。

③ その他の事項

区分	事項	計画内容
自己点検・評価	自己点検・評価への取り組み	短期大学部は平成 19 年度に短期大学基準協会の第三者評価を、大学は平成 20 年度に日本高等教育評価機構の認証評価を受審し、ともに適格の評価を得ている。平成 26 年度も継続して点検・評価を行い、学園ホームページで公表する。また、点検・評価を踏まえた改革に着手する。
	第三者評価、機関別認証評価への取り組み	香川栄養学園自己点検・評価委員会は、大学部会・大学院部会・短大部会・専門学校部会・法人部会を設置し、部会により建学の理念・目的に則った点検・評価を実施している。平成 26 年度に短期大学部が一般財団法人短期大学基準協会の第三者評価を、平成 27 年度に大学が公益財団法人日本高等教育評価機構の大学機関別認証評価を受審予定となっているので、教育・研究・ガバナンス等の問題点を掌握し、P(Plan)D(Do)C(Check)A(Action)に従ったスピーディーな改善・改革を実施する。
労務管理	労働環境改善策	職員の労働環境改善をはかるべく、駒込キャンパス並びに坂戸キャンパスそれぞれに労働安全衛生委員会を設置し、学園内の教職員の労働衛生関係の課題の洗い出し及び次年度計画の策定を行う。 NO 残業キャンペーン以外に「有給休暇促進月間（仮称）」を設け職員の有給休暇取得日の増加に繋げたい。
	SD (Staff Development)	SD の充実により、職員の育成強化を図る。 具体的には新入職員の研修の充実、階層別、業務別を実施する。
	目標管理	目標管理については、経営戦略の一環として現状の方式を改める方向で検討する。 具体的には、現在単一の目標シートを管理職用、非管理職用と分化させ管理職には、事業計画を基に組織のミッションに沿った目標を設定させる。また、現在評価者によりバラツキがある評価を統一させる為、一定の評価基準を制定する。
周年行事	創立 80 周年記念事業報告書の作成	平成 25 年に学園創立 80 周年を迎え、各種行事や事業の実施を通じてこれまでに蓄積された教育研究資産と人的・物的資産の見直しと掘り起こしを行い、これらを新しい観点から有機的に組み合わせて、次の 10 年を拓く教育研究体制の整備と縦走で多様な人的ネットワークの構築の契機にすることを目的に以下の記念事業を実施した。 ・記念式典・祝賀会 ・記念誌の編纂 ・記念集会・講演会・シンポジウム・国際会議等のイベント開催 ・80 周年記念募金の実施と教育研究施設整備 平成 26 年度は、実施の状況を報告書としてまとめ関係者に配布する。

情報・ネットワーク	コンピュータ実習室機器リプレイス	坂戸／駒込両キャンパスに設置しているコンピュータ実習室について、導入から5年が経過し老朽化が進んでいる機器のリプレイスを行う。 坂戸：PC 164台、プリンタ9台 駒込：PC 63台、プリンタ5台
	学内サーバのリプレイス	坂戸／駒込両キャンパスに設置しているインターネット系サーバ、基幹業務システムサーバ、認証サーバについて、導入から5年が経過し老朽化が進んでいるため、機器のリプレイスを行う。併せて情報セキュリティ機能の大幅な強化を行う。
	PC仮想化（デスクトップ仮想化）の検証（継続）	PCの更新コストの低減、運用管理コストの低減、高価な教育用ソフトウェアの有効活用を目的とし、仮想デスクトップの実機による動作検証を行う。
	グループウェアの活用	学内に於ける情報共有手段として、全学的なグループウェアの学内展開を図る。イベントや連絡事項を全教職員に周知・共有することが可能となり、メールに依存した現状から脱却する。また紙媒体から電子媒体への移行も図る。
	基幹業務システムの更新	現行の基幹業務システムは導入から10年以上が経過しており、特に学生サービス系の機能が不足しているため、新しいシステムの検討、更新に着手する。
	インターネットを利用した会議システムの検証	坂戸－駒込間に於いて、インターネット回線を利用したテレビ会議システムの実機検証を行う。
図書館	図書・学術情報の整備	電子ジャーナル・オンラインデータベースの提供、研究図書、専門図書の充実により学術情報の整備を図る。
	教育・研究支援	授業用参考図書の設置を行う。読書教育の一環として、学生による書店選定を実施し、学生に本や読書への興味を促す。所蔵資料の企画展示を行い、資料の広報ならびに利用促進を図る。電子ジャーナルなどのオンライン講習会を研究者に案内し、研修の機会を提供する。本学の特色ある専門授業等をOCW(Open Course Ware)へ追加し、公開する。
	本学研究成果等の公開	「機関リポジトリ」（電子的形態で集積、保有、公開するための電子アーカイブシステム）のコンテンツとして、博士論文（学位論文）の公開、洋古書等のデジタル化と公開、ならびに研究者の学術雑誌掲載論文の公開を進める。「栄養と料理デジタルアーカイブス」の平成期デジタル化を進める。
	図書館の活性化	図書館内の各エリアの機能を利用者に広報し、利用の推進と図書館の活性化を図る。

区分	事項	計画内容
保健管理	保健管理のシステム化	1. 保健管理のシステム化：情報 NW 担当との協力により、システム化の第1段階として、2006年度以降の栄養学部学生の在学中の定期健康診断の成績を用いた健康管理の基礎資料を活用する。 2. 短期大学部学生・専門学校生徒、および教職員の健診データベースの構築。 3. 労働安全衛生管理（放射線取扱者、有害化学物質取扱者らの健康管理を含む）および特定保健指導の各対象者への保健指導のシステム化及び対応の一元化に関する検討。
	感染症対策	1. 麻疹対策については、入学前の全学生・生徒に（第4期）予防接種を勧奨、入学時の抗体検査に基づく予防接種を勧奨。（25年度在学学生全員の抗体保有率は95%以上となり、麻疹の集団発生は抑止されている。） 2. 管理栄養士・栄養士の学外実習前のB型肝炎および小児感染症などの予防接種の勧奨指導の継続。（学生への個別指導を迅速・適正に行えるようになった。） 3. ウイルス感染性胃腸炎の学園内感染予防対策として、病原細菌と共に、学内外の調理・給食管理実習ではノロウイルスの事前検査の実施。
	BLS（一次救命処置）教育の実施	AEDの使用など救命救急法について、坂戸、駒込両キャンパスで、地区消防署指導の実技講習会の開催、生理学実習でのトレーニングセットの貸し出し、講義への協力で実施。十分な授業時間で健康教育をするように検討する。
入試広報	学生数の確保	大学、短期大学部の収入の基盤である学生数の確保を目指し、その他の事業「学生募集の強化(1)～(6)」をやり遂げる。 また、大学のブランド力維持のために志願者数は、2013年度実績を確保する。 なお、栄養士養成学科の入学人数については、定員厳守を目標に、それ以外については、定員を確保する。
	学生募集の強化	
	1	学部卒業生や退職者を積極的に活用し、卒業生による高校訪問や高校内ガイダンスの充実を図り、高校現場に女子栄養大学の魅力を広めていく。（継続）
	2	オープンキャンパスを13回実施し、年間の参加者数8000人を目標とする。そのためにDMのデザイン強化、配布などをさらに充実させていく。（継続）
	3	ネット媒体、雑誌媒体、新聞媒体を利用し、本学の強みをより一層広報していく。高校生だけではなく、未来の受験者予備軍である中学生や小学生にも本学の認知度を高めていく広報活動をさらに強化する。（継続）
	4	26年度は、臨床検査技師、養護教諭養成校としての女子栄養大学の打ち出し方を模索し、保健栄養学科の募集の建て直しを図る。（新規）
	5	2011年度に開設した「女子栄養大学レンピサイト」は4年目を迎える。2014年度は、リピーターを増やすべく、実践栄養学科を巻き込んで充実したサイトに発展させていく。（継続）
6	スマートフォン対応のホームページの作成は2012年度に終えた。今後はフェイスブックなどの活用を目指すと同時に、各学科のブログ立ち上げを積極的に検討する。（継続）	



区 分	事 項	計 画 内 容
学 園 広 報	エクステンション事業 ＜香川綾記念講師派遣事業＞	国をあげて推進する「食育」に関する意識の高揚に伴い、幼・小・中・高校、並びに高齢社会到来という時代背景もあり、栄養・食・健康に関する行政・社会団体・企業等からの講演依頼が急増している。その対応策として、平成 11 年度より発足させた講師派遣事業の一層の充実を図る。(平成 25 年度実績 375 件)
	学園広報の取り組み	女子栄養大学を冠する書籍の発行(平成 26 年 2 月時点で 25 冊)等により、取材等の波及効果を栄養クリニック・出版部・プランタン・松柏軒など事業部のさらなる認知度アップにつなげるとともに、産・官・民・学の連携による共同事業の拡大、食を通しての社会貢献によるブランドイメージの確立、浸透を進める。広報手段として有効と考えられるウェブサイトを整備、充実させる中で、学園のビジョンを発信する。 入試広報の後方支援として、スポーツ栄養セミナーを新規会場も含めて 6~7 会場(静岡・新潟・茨城・千葉・宮城・埼玉など)で実施(一部保護者会と合同開催)し、全国的認知をさらに深める。またイブニングコース、キャリアコース等の志望者へ「社会人のための入学相談会」の開催(8 回)や、数多くの高校訪問をし、高校教員とのパイプ構築に伴う志願者増に努める。学園祭へ連携自治体・教育関係団体などによる出展等の協力のほか、地域イベントへも積極的に参加し、さらに地域との連携を図る。 学園誌「香窓」、学園総合案内「Locus」等の広報誌についても、より一層の充実を図る。
	香友会・卒業生へのアプローチへの強化	学園誌「香窓」を平成 23 年度発行分(61 号)より、在学生保護者の他、全卒業生を含む約 32000 件に送付する。卒業生とのつながりを密にすることで、学園と香友会との協力関係をさらに強化し、リクルート等への学生支援につなげる。
	保護者会の運営	平成 23 年度に大学・短期大学部に保護者会を設立。平成 26 年度は、地方 7 会場(静岡・新潟・茨城・福岡・千葉・栃木・宮城)で保護者の集いを開催する。諸活動を通じ、保護者相互の親睦を深め、あわせて本学の取り組みに対する理解を深めてもらい、学生ならびに本学への支援の輪をさらに広げる。
	料理教室の認定制度	本学園を卒業し、「料理教室」を主宰・運営されている方に対し、その社会的活動を奨励・支援することを目的に「料理教室の認定制度」を設けた。現在までに 20 名が認定され、全国各地で「女子栄養大学認定校」の名称を用い、料理教室の運営にあたり活躍されている。26 年度も 20 件の認定を目標とする。
	学生県人会への協力	在学生の縦の結びつきを強化することを目的に、県人会が活性化するように協力する。在学生会員となっている香友会とも連携し、卒業後の同窓会活動への橋渡しを行う。
国 際 交 流	海外研修の実施	オーストラリアやヨーロッパにおける洋菓子・西洋料理・栄養学研修などの専門研修および英語研修を実施し、学生・生徒の海外・異文化経験の貴重な機会として参加者数の増加に努める。
	海外の大学等との交流	オーストラリアやタイの提携大学との教員交流・学生交流活動の推進サポートに努める。26 年度はカーティン大学公衆衛生学部の学生・教職員の団体が参加するジャパNSTAディーツアープログラムの企画・受入れを予定。また、ソウル国立大学生生活科学部との学生交流に関する合意書に基づき、4 人目の受入れとなる学生 1 人を受入れる予定である。

区分	事項	計画内容
生涯学習センター	社会通信教育の実施	文部科学省認定社会通信教育「栄養と料理講座」とスクーリングを実施し、機関紙を発行する。また、これに関連した成績優秀者表彰式、生涯学習ネットワークフォーラム等のイベントへの参加。ホームページの充実、講座の広報・宣伝活動を行う。
	『食生活指導士』制度の充実	『食生活指導士』の資格取得者（在学生、卒業生、通信教育修了生）の数〔現在：1級1,097（内学生828）名、2級1,715名、計2,812名〕を増やし、制度の充実を図ることにより通信教育の受講生確保に繋げる。また、資格取得者を対象としたスキルアップ講座を年2回開講し、併せて四群点数法の普及を行う。
	DVDによる『管理栄養士国家試験合格支援講座』（通信）	DVDを主教材とし、本学出版部発行の関連書籍6冊を補助教材とした通信教育を実施。オープン模試、管理栄養士国試対策室のメール教室ともリンクしていることが特徴ある講座なので、更に受講生獲得に努力していきたいと考えている。
	人材バンク事業	社会通信教育協会認定資格「生涯学習インストラクター」の登録と「まなびの達人・あそびの達人」の認証に係る一連の事業を実施する。
	講習会・公開講座開講	女子栄養大学栄養学講座・「料検」合格対策講座・スクーリング（家庭料理コース）等の各種講座を開講する。 また、昨年度より、香川料理教室を生涯学習センターのシステムの中で管理運営することになり、日本料理コース、パン（基礎・応用）コース、こども料理クラスを新体制で開講。
	管理栄養士国家試験対策模擬試験の展開	社会人を対象とした「女子栄養大学オープン模試」の年2回実施を定着させて団体受験者数〔2013年度2986名（前年度比+751名）〕の拡大を図る。会場（本学）と自宅（通信）にて実施するが、試験実施会場校と本学での会場受験希望者の伸びと新規受験会場校の伸びが目立つ。
	女子栄養大学生涯学習講師事業	認定者の管理及び講師派遣事業。現在の登録者数321名、将来的に卒業生の1%（400名）を目標として取り組む。
	文部科学省後援家庭料理技能検定実施	「文部科学省後援 家庭料理技能検定」の実施と成績優秀者表彰式の開催。自己評価シートの継続実施と今後の第三者評価を視野に入れ、作問体制強化の為、実技試験問題検討委員会を立ち上げ、新体制で審査基準の冊子を作成する。 大学・短大・専門学校等の団体受験に向けて広報活動の強化を行い、受験者増に努める。特定非営利活動法人「全国検定振興機構」の活動に参加。
	管理栄養士国家試験対策模擬試験の展開	社会人を対象とした「女子栄養大学オープン模試」の年2回実施を定着させて団体受験者数〔2013年度2986名（前年度比+751名）〕の拡大を図る。会場（本学）と自宅（通信）にて実施するが、試験実施会場校と本学での会場受験希望者の伸びと新規受験会場校の伸びが目立つ。
	各種テキストの作成	「家庭料理検定過去問題集2015」の作成。 「給食管理」「食文化概論」のテキスト再販。学習指導書（一般・専門）、各テキストに付随する課題報告書の作成。
文部科学省事業への参加	文部科学省主催「成績優秀者表彰式」「早寝早起き朝ごはん」等の各種イベントに参加協力する。	

区分	事項	計 画 内 容
附 帯 事 業	販売における売上額の増額	栄養があり、高品質で安全な製品を作り販売していく。消費税率アップにより価格の見直し(商品の値上げを検討する)。
	地域におけるイベント参加	学園広報と協力して、菓子教室の講師活動を行う。 企業のイベント、若葉祭・駒込祭への参加、丸広百貨店、鶴ヶ島産業祭り、埼玉県農業大学などのイベント参加により増収を図る。
	給与の改定	業務の内容を検討。効率の良い製品作り。超過勤務手当や、アルバイトの人件費などの見直し等を引き続き行ない、人件費抑制を図っていく。
	材料費・包材費の見直し	現在使用している、材料・包材について品質・原価を見直す。包装紙、紙袋など、新しいデザインに変更。ポストカードなど新規制作。消費税による、原材料の高騰についてコスト削減を検討する。
	製菓科生徒のプランタン実習	製菓科における、付置教育機関「プランタン」での実習により現場における即戦力を育て、社会人として通用する人間教育を行なう。
	学部生における実習	食品開発実習などにおける、新製品の開発。
	葉酸を使用した製品製作	葉酸を使用した製品を作り、提供する。
	近隣の地域との提携	駒込、坂戸の地域におけるイベント参加。近隣の方に対し、日頃の感謝をこめて協賛として活動に参加、協力していく。
	企業と提携	各企業と提携して、製品を開発していく。
	学園の広報活動	学園の広報機関のひとつとして、イベントなどに参加する。
	カフェの充実	カフェドリンクの充実を図る。売上の向上。
	販売商品の見直し	販売している商品を検討し、改善する。季節感のある製品を販売する。
	事業部との連携	松柏軒・サムシングと業務を提携。プランタンの製品を卸して、販売。松柏軒のパンをプランタンで販売するなど。
	香友会と提携	香友会の会員に対しての特典を検討。お中元・お歳暮などとして使用していただく。
コンテストの参加	職員の製品に対してのコンテストの参加。製造の技術の向上を売上増につなげる。	
松 柏 軒	売り上げ	現状企画等の抜本的な見直しを図り営業改善を目指す。消費税増税による価格設定の見直し、内容改善、営業形態などの改定、改善を行い効率的な事業収入増を目指す。学園内の金額設定の改定。 営業努力を怠る事なく行い品格・品質を維持し新規企画の努力を行う。
	産学連携等のレシピ開発	産学連携を行っている企業への商品開発、レシピ提供。
	人件費の抑制	労務管理の徹底。アルバイト人件費、超過勤務手当の見直し等を地道に行い引き続き、シフト体制の強化、管理体制の強化、人件費抑制を図っていく。カフェテリア、フードサプライにおいても労務管理体制の強化、シフト強化、人件費の抑制を行う。
	材料原価の抑制	原価管理の徹底。材料高騰により仕入先の見直しを行う。 仕入れ業者の競争を行うことにより材料費の抑制を図る。
	消耗品等の経費	原価管理の徹底。箸、袋等の消耗品の価格の見直し、他部署との協同購入を行い経費減を行う。

区 分	事 項	計 画 内 容	
附 帯 事 業	松 柏 軒	事業の開拓	新規顧客の開拓及び整理を行い事業の充実を図る。立地、スペースなどさまざまなメリットを屈指して新規企画を行う。教育施設（幼・小・中・高・大）・企業ヘテーブルマナー・作法の実施。主催としてのイベント企画及びイベント事業の参加。学園直営のメリットを生かした、他にはない付加価値のある事業の開拓を図る。カフェテリアで四季を通じてのイベントの開催。
		専門学校生徒の実習	付置教育施設としての生徒の育成。特に調理師マイスター科の学生への実践教育・指導・即戦力となる人材の育成。
		区との連携	豊島区・北区へ食育・福祉関係での料理の協力。企画参加。
		商品（惣菜）の開発	食材の廃棄を最小限に抑えるべく惣菜等の商品の開発を図り販売を行う。
		商品（ギフト）の開発	オリジナルギフト商品の開発。
		企業との提携	各企業との提携による商品の製造及び開発への取り組みを行う。レシピの提供。
		広報的な活動	顧客に対して、学園の広報活動を実践する。
		衛生管理の徹底	業務従事者が一丸となり食中毒事故を起こさないようにする。 レストラン、カフェテリアで各々マニュアルを作成。 施設での業務に携わる時の服装・手洗いの徹底を行う。 衛生管理担当者、施設設備管理者を設け、調理作業・食品管理保存・施設設備のチェックシートを作り毎日記入を行う。 個々の体調管理の徹底を行う。 ミーティングなどで体調不良者がいないかなど、毎日チェックを行う。
収 益 事 業	出版部	今後も当分続くとみられる出版不況の中で、着実に収益を確保できるよう少数精鋭による体制づくりに励むとともに、現行の事業分野を見直し、新たな収益源の確立を図る。	
	代理部	学生サービスを基本とした提携事業（青山商事・坂戸自動車教習所など）での売上を伸ばし効率よく利益を上げると共に同様の新たな提携先を模索する。また、他部署との連携をさらに深め協力を得ること、学生・生徒に代理部の商品・サービス・割引日などのPR方法を工夫することで売上増をめざし、予算達成に努力する。	